



### 【ポイント】

小学校高学年の到達目標

「境界線」について知る。

小学校高学年での性暴力は、身近な人からの被害が多く、子どもが被害を隠す傾向があり、表面化しにくい。

また、スマートフォン所持率も高くなり、性に関する情報を入手しやすくなり、SNS等を介した被害も始まる。

ここでは自分を守り、相手を尊重するための境界線のルールを学ぶことで、性被害・性加害を生まない基盤を作る。

#### 1. 「境界線」を知る

性暴力について認識するためには、他者から自分の境界線を侵害される違和感、自分自身の「イヤ」の気持ちを自覚できるような働きかけが必要である。虐待などシビアな環境下の子どもほど、この違和感が麻痺してしまう。境界線概念を理解することで、暴力や権利侵害に気づき、援助希求に向かう力となる。

ここでは動画を利用して、からだや持ち物、きもちや考え方、空間や時間、そして性にも境界線があることを学ぶ。

2. コミュニケーションスキルとして「イヤ」と言えるようになる。  
まずは性に限らず、境界線の危機の際には「イヤ」と言う選択肢があること、相手から「イヤ」と言われた時にそれを受け入れることも大事であることを学び、自分も相手の気持ちも尊重する方法について考える。

3. 信頼できる大人に相談する権利があることを知る。  
認めたくない気持ちや自責感、恥の感覚によって、相談するハードルは高くなる。境界線をこえられた場合の対処法を知ること、被害を受けた際に相談しやすくする。同時に被害にあったときの混乱や傷つきを少しでも軽減させる。

# おはなしすること

きょうかい せん  
●境界線ってなに？

せい きょうかい せん  
●性の境界線

せい ぼうりょく  
●性暴力にあったとき

あなたのからだは  
あなたのもの

【ポイント】

本授業の基本となる考え方を伝える。

なぜ境界線の概念が役に立つのか、の導入となる。

動画：境界線ってなに？...自分も相手も守る透明バリア



4

【ポイント】

動画「境界線ってなに？」を視聴することで、境界線の考え方を、直観的かつ具体的にイメージできるようにする。



【ポイント】

◆キースライド（全てのスライドを示す時間がない場合、このスライドを優先的に示す）

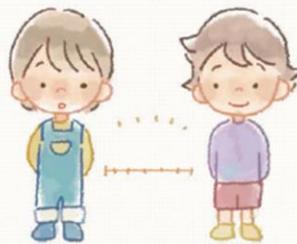
ここからは動画の復習となる。動画視聴からアドバイザーとの相方向のやりとりに移る場面。自分のこととして考えることができるように、体を動かすなどして境界線をイメージしてもらう。

目に見えない境界線のルールを知ること、自分と相手との間には境界線があり、境界線の内側は自分だけのものであることを伝える。

境界線概念を理解することは、自分自身を理解するための手助けになり、性被害・性加害を生まない文化の第一歩となる。

# 「からだの境界線」

あなたのからだはあなたのもの  
だれと、どれくらい距離をとるかはあなたが決められる



## 【ポイント】

まずはイメージしやすい物理的な境界線である「からだの境界線」を学ぶ。

## 【留意点】

マイナスな表現だけでなく、それが権利だとわかるようにプラスの表現を用いる

# 「持ち物の境界線」

も もの かね きょうかいせん  
持ち物やお金にも境界線がある



## 【ポイント】

「からだの境界線」に続き、比較的イメージしやすい「持ち物の境界線」を学ぶ。

## 【留意点】

マイナスな表現だけでなく、それが権利だとわかるようにプラスの表現を用いる

# 「きもちや考え方の境界線」

あなたのこころはあなたのもの

どんなきもちももっていい、

なに な たいせつ き 何を大切にするかはあなたが決められる



## 【ポイント】

同調圧力によって、自分の気持ちや考えを表しにくくなるといったことは、子どもの間でも起こりがちである。それは「気持ちや考え方の境界線」の侵害であり、ひいてはいじめや性暴力につながることもある。

自分と相手の気持ちや考え方には境界線があり、自分の気持ちは自分のものであることと同時に、

相手の気持ちも相手のものであることを考える機会とする。

## 【留意点】

マイナスな表現だけでなく、それが権利だとわかるようにプラスの表現を用いる



【ポイント】

ワークを通して自分の境界線を知り、その危機（ピンチ）についてアンテナを張るきっかけとする。

【留意点】

- ・発表の際は、まず先生に発表してもらい安全な枠を感じてもらう。  
先生には打ち合わせなどの段階でワークの意図を伝え、事前に内容を共有しておく。
- ・生徒が考えてくれたことに対して受容、フィードバックを行っていく。その際、子どもたちの力を信じ、エンパワーメントしていくことを忘れない。

「<sup>きょう</sup>境界<sup>かい</sup>線<sup>せん</sup>」がピンチなときには

- 「イヤ」だと相手<sup>あいて</sup>に伝える<sup>つた</sup>
- その場<sup>ば</sup>をはなれる
- 味方<sup>みかた</sup>になってくれる大人<sup>おとな</sup>に、はなしてみる

どれをえらんでも、だいじょうぶ

【ポイント】

境界線がピンチ（危機）な時の対処法を伝える。

いくつかの対処法のなかから、自分が使いやすい方法を選べることを知る。

【留意点】

「イヤ」という選択肢はあるが、関係性や状況によりできない場合もあるため、選択肢の一つとして選べるよう伝えていく。

境界線を勝手にこえられたとき、勝手にこえた人にその責任があり、被害者がイヤと言えなかったからといって責められてはならないことを、理解しておく必要がある。

「イヤ」っていわれると…  
ツライこともあるよね

あい て きょう かい せん  
相手の「境界線」をこえてないかな？

かんが  
ってちょっと考えてみる

あい て きょう かい せん  
相手の境界線も  
たい せつ  
大切にする



【ポイント】

相手の反応が自分の思い通りにいかないこともあるが、相手の「イヤ」を自らへの拒否と受け止めるのではなく、境界線の概念を通してコミュニケーションスキルとして「イヤ」を受け入れられるようになることが狙い。

【留意点】

自分の「イヤ」を他人に受け入れられたことがない児童や、相手の事ばかりを考えて自分の主張をためらう児童もいることも想定しておく。

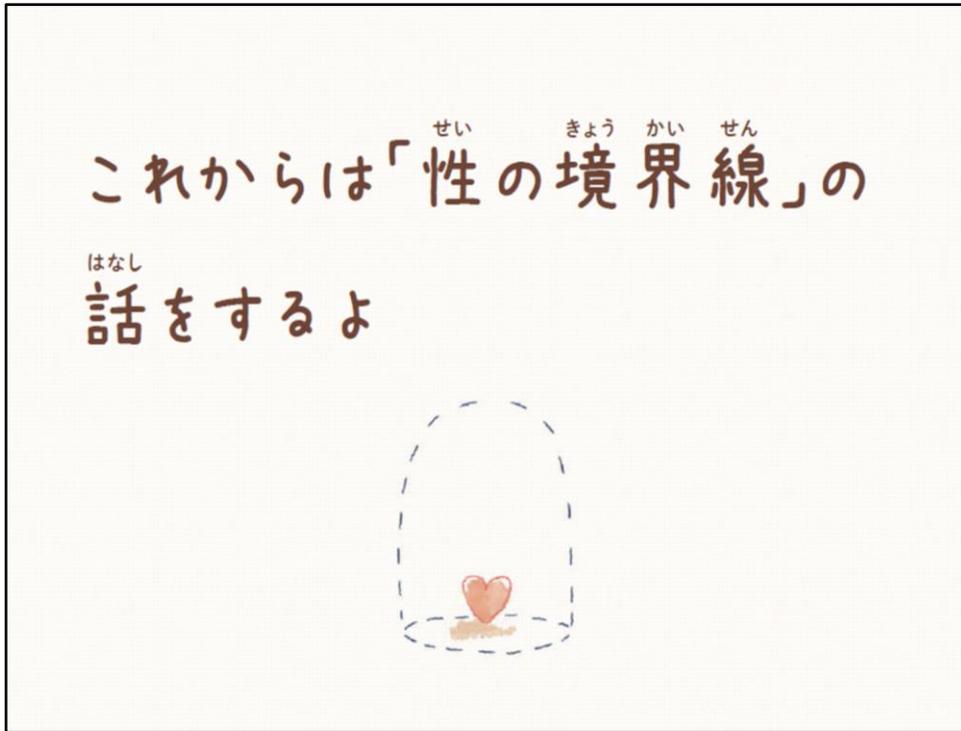
きょう かい せん  
境界線をこえるとき

ことば たが き も  
言葉でお互いの気持ちを

たし  
確かめよう



【ポイント】  
境界線は目に見えないからこそ、言葉で確認することが必要である。



【ポイント】

いろいろな境界線のうち、性の境界線に焦点を当てていく。

【留意点】

侵襲が高くなるので、表情や声に気を付け、一定の距離感を保って話をする。

じぶんだけの「だいじなところ」とは？

たい そう ふく  
体操服でかくれるところ

プライベートゾーンともいいます



【ポイント】

自分だけの「だいじなところ」の学習は小学校低・中学年で扱うが、本制度の試行期間中は、知識を習得できていない児童がいる。また、性暴力の授業では欠かせない視点であるため、復習として再度取り上げる。

たが きも かくにん かって  
お互いの気持ちの確認をせずに、勝手に

あいて  
相手の「だいじなところ」を…

みる・さわる



じぶん  
自分の「だいじなところ」を…

みせる・さわらせる



せい きょうかいせん  
これは「性の境界線」が守られていない

せい ぼう りょく  
つまり「性暴力」です

#### 【ポイント】

子どもにとってわかりやすいように、性暴力については能動態（加害の表現）で示している。

子ども達が性や体に興味を持つのはもっともなことで、健全なこと。

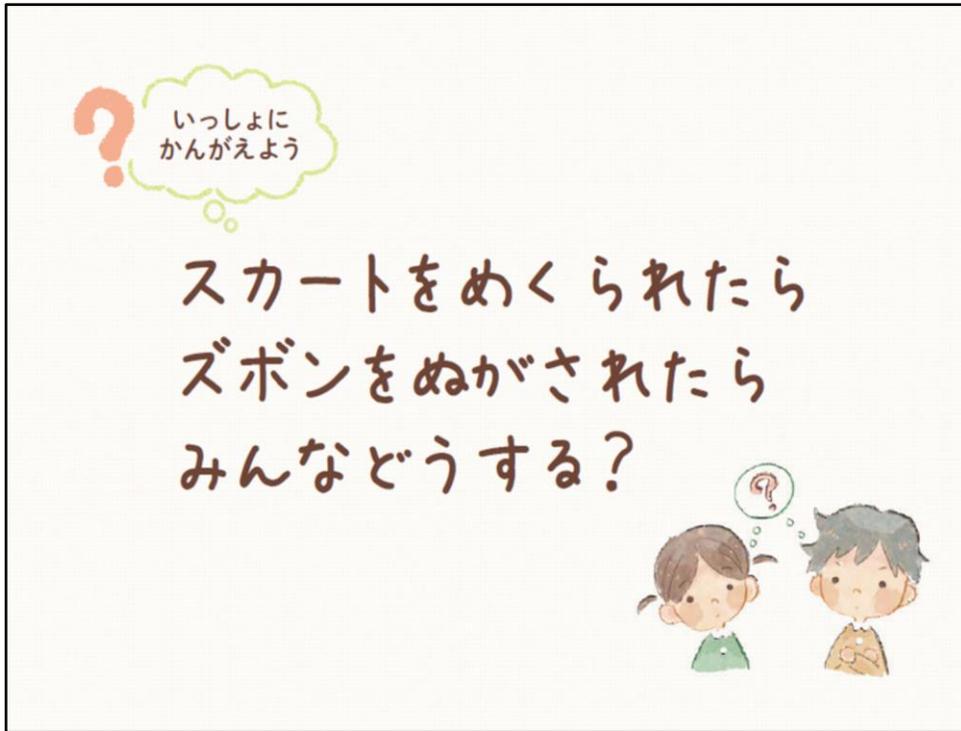
この授業では性を否定するのではなく、だいじだからこそ、ルールを学ぼう、という姿勢でのぞむ。

#### 【留意点】

すでに親や先生から侵害を受けている子ども、侵害をしてしまったこどもがいることを想定して伝える。

すでに子ども同士でもスカートめくりやかんちょうなど、加害行為をおこなっている子は一定数いることを意識する。

今まで子どもたちが学ぶ機会がなかったことも考慮し、子どもたちの行為を責める発言はしない。



【ポイント】  
ここからは、受動態（被害の表現）にうつります。

【留意点】  
「スカートをめくられたら、ズボンをぬがされたら」の部分は発達段階などに  
応じて変更

せい ぼう りょく  
性暴力にあったとき

● その場をはなれる<sup>ば</sup>

● 味方になってくれる大人に<sup>み かた おとな</sup>  
話<sup>はな</sup>していい

ひとりじゃないよ



【ポイント】

◆キースライド（全てのスライドを示す時間がない場合、このスライドを優先的に示す）

性暴力を受けたことを認めたくない気持ちや自責感、恥の感覚によって、相談するハードルは高くなる

境界線をこえられた場合の対処法を考えることで、実際に被害を受けた際に相談しやすくする。同時に被害にあったときの混乱や傷付きを少しでも軽減させる。

前述の「「境界線」がピンチなときには」では境界線が越えられそうになった時の予防について伝えている。

今回は実際に性暴力被害にあった後の対応についての話となる。

防犯意識を高めるための教育に終始しない。大声を出したり逃げる、という大人でも難しいことを児童に求めるとそうできなかった自分を責めてしまい、援助希求への妨げになりうる。

一方で子どもが「大声を出す」などの意見を出してくれた際には、そこを否定するのではなく、

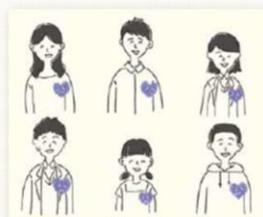
肯定しながら、それができなかったからと言って被害を受けた子が悪いわけではないことも伝えていく。

せい ぼう りょく ひ がい しゃ し えん  
性暴力被害者支援センター・ふくおか

じ かん にち でん わ そう だん  
24時間365日、電話で相談できます。

な まえ がっ こう い  
名前や学校を言わなくてもいいです。

ひ みつ まも  
秘密は守ります。



【ポイント】

親や先生など、周りの大人に話しづらいときでも、匿名でも話せる窓口があることを紹介する。

きょうかいせん      じぶん      まも      あいて      まも      とうめい  
①「境界線」は自分を守る、相手を守る透明バリア

じぶん      きょうかいせん      き  
②自分の「境界線」のピンチに気づこう

きょうかいせん      たいせつ  
③「境界線」を大切にしよう

せい   ぼう   りょく   う   とき   み   かた   おとな  
④性暴力を受けた時は、味方になってくれる大人に  
はな  
話してみよう

あなたのからだはあなたのもの  
あなたのこころもあなたのもの

【ポイント】  
大切なことなので改めて伝える。